

何でも読もう会

書物名	『橋』	開催日	出席者
作者	橋本 治	2024. 6. 17	4名
<ul style="list-style-type: none">・作者 橋本治は東大駒場祭のポスターで「とめてくれるな おっかさん」で注目を浴びた。 デビュー作『桃尻娘』で衝撃を与えた作家。・『橋』の帯書きには「悲劇は起こる。しかしそれが何故なのか誰にもわからない」とある。・作品では事件の描写はないが、2006年4月5月に起こった「秋田児童連続殺人事件」と2006年12月に起こった「新宿・渋谷エリートバラバラ殺人事件」という2大殺人事件を題材に、高度成長期・バブル期そしてバブル崩壊後の二家族の母と娘、それぞれの生き方を創作したもの。 <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none">・殺人事件の社会的背景や、それを引き起こした子供の育て方への警鐘でもあった。・バブル崩壊後に立ち直らない日本の経済状況が、二人の生き方にこんなはずではなかったと思わしているようだ。・母・娘の生い立ちが詳細に書かれており、最終段階で殺人事件を引き起こすとは、前半では想像もできなかった。・高度成長期の狂乱に沸いた中で、地方も乗り遅れてはいられない気持ちと、その後は中央から見放されてしまった地方の様子も丁寧に描かれている。			